

# 社会基礎学II

## 「グローバル化」と「地方の活性化」に 貢献できる輝く人材の育成

※本科目は高年次向け(標準履修年次2・3・4年次)。1年次生も履修登録可。大学院生は特別履修願の提出により受講可。



### 10/7 (土) 13:30 開講

オーガナイザー教員 ●坪内 孝司(システム情報系・教授・教学デザイン室長)  
パネリスト・講師陣(10/7) ●石川 貴之((株)日建設計執行役員)  
平石 和昭((株)三菱総合研究所主席研究部長)  
パネリスト・講師陣(12/2) ●長橋 和久(国土交通省 不動産・建設経済局長)  
林田 康洋(一社)日本プロジェクト産業協議会(JAPIC)常務理事  
定岡 祐二((株)みずほ銀行 執行理事 産業調査部長)



教室:ユニオン講義室(予定)

時間:各回13:30-16:30

第1回 10/7(土)  
第2回 10/14(土)  
第3回 11/11(土)  
第4回 11/25(土)  
第5回 12/2(土)  
期末試験 12/16(土)



## 筑波大学



## JAPIC

日本プロジェクト産業協議会

授業スケジュールの詳細はこちら↓

(パンフレット)

(KdB)



# 教室で、 セカイと 同期する。

履修申請期限

## 9/22 [金] 23:59

※TWINSの「事前登録」から登録してください。

※登録者が200名に満たない場合は、9/26(火)19時~10/16(月)に再履修申請期間を設けます。  
この場合はTWINSの通常の履修申請から申請してください。(先着順)

講師の方々との対面によるディスカッションを特徴とする講義のため、対面による授業形態を予定しています。  
新型コロナウイルスの感染拡大状況に応じオンライン(同時双方向型)に変更する場合があります。詳細は科目登録者にmanaba上でお知らせします。

# 社会基礎学Ⅱ - 「グローバル化」と「地方の活性化」に貢献できる輝く人材の育成

オーガナイザー教員 ● 坪内 孝司 (システム情報系・教授、教学デザイン室長) 他

社会基礎学Ⅰはいかがでしたか？  
今年秋には社会基礎学Ⅱを開講します。こちらも是非受講して下さい。1年次生の皆様も受講できます。我々をとりまく社会を垣間見てセカイと同期しましょう！

**第1回** **10/7** (土) 13:30-16:30

**導入講義**  
**連続リレー講義の意味・意義と狙い**  
(一社)日本プロジェクト産業協議会(JAPIC) 常務理事  
**林田 康洋** [ Hayashida Yasuhiro ]

**パネルディスカッション** **第1部**

**グローバル化とは何か？**  
**グローバル化の中で日本は？**

**パネルディスカッション** **第2部**

**学生は何を学び、何を身に付けるべきか？**

- パネリスト** (株)日建設計 執行役員 企画開発部門 新領域開拓グループ プリンシパル **石川 貴之** [ Ishikawa Takayuki ]
- パネリスト** (一社)日本プロジェクト産業協議会(JAPIC) 常務理事 **林田 康洋** [ Hayashida Yasuhiro ]
- パネリスト** (株)三菱総合研究所 主席研究部長/プラチナ構想ネットワーク 事務局長 **平石 和昭** [ Hiraishi Kazuaki ]
- コーディネーター** 筑波大学教員 システム情報系教授 教学デザイン室長 **坪内 孝司** [ Tsubouchi Takashi ]

グローバル化とは何か？日本経済の課題を浮き彫りにした上で、安全保障、資源、エネルギーなど様々な観点から議論を進め、日本の進むべき未来を論じる。グローバル人材とは何か？産官学の第一人者たちが次世代のリーダーに必須となる素養について論じ、この講義で学んで欲しいことを明確化する。

**第2回** **10/14** (土) 13:30-16:30

**企業経営の現状・課題と戦略**

日本製鉄(株) 常務執行役員 人事労政部長

**十河 英史** [ Sogoh Eiji ]

本講義では、日本製鉄の過去・未来の取り組みを通じて、日本のものづくり産業が目指す成長戦略について考察する。①「鉄」という素材の多様な特性・魅力/②プラザ合理による超円高、中国の台頭、川上・川下業界の再編等の危機をどのように乗り越えてきたか/③人口減少による内需縮小、気候変動への対応ニーズの急激な高まり等の環境変化にどう向き合っていくか

**日本経済が向き合うリスクと変革の可能性**

(一社)共同通信社 論説委員長

**永井 利治** [ Nagai Toshiharu ]

日本経済はさまざまなリスクを抱えている。脱炭素、経済安全保障は企業の戦略を大きく変化させ、多くの経営者は緊張感をもって次の一手を検討している。新型コロナウイルスは物流の混乱と資源価格の上昇をもたらした。世界的な金融緩和は転換点を迎えた。日本では財政政策も政治の対立軸になってきた。中長期的なリスクへの対応策と、そこから生まれるゲームチェンジの可能性を探る。デジタル化が進むメディアの将来像にも触れたい。

**第3回** **11/11** (土) 13:30-16:30

**北東アジア情勢と日本外交**

外務省 アジア大洋州局長  
**船越 健裕** [ Funakoshi Takehiro ]

日本をとりまく安全保障環境の中で、日米同盟、日本の安全保障政策、そして対中政策、対朝鮮半島政策をどう考えるか。

**組織におけるダイバーシティと人的資本**

(株)日本政策投資銀行 常務執行役員

**原田 文代** [ Harada Fumiyo ]

社会・経済のグローバル化やサステナビリティへの対応の必要性を背景に、ダイバーシティの重要性は言を俟たない。最近では人材を企業価値の源泉、「資本」としてとらえる機運も高まっている。当講義では組織におけるダイバーシティマネジメント、即ち構成員の多様な特性と個性の組織内への取込み、活用につき、歴史的発展過程及び現状、課題について解説する。また国内外の先進的事例を交えながらダイバーシティマネジメントの効用を明らかにし、将来像を展望する。

**第4回** **11/25** (土) 13:30-16:30

**日本の安全保障環境と防衛政策**

防衛事務次官

**鈴木 敦夫** [ Suzuki Atsuo ]

国際社会は深刻な挑戦を受け、新たな危機の時代に入。インド太平洋地域においても、深刻な事態が発生する可能性があり、我が国はこうした動きの最前線に位置している。このように、戦後、最も厳しく複雑な安全保障環境に直面する中、昨年12月に、政府は、「国家安全保障戦略」等の戦略3文書を新たに策定し、今後5年以内に、反撃能力の保有も含めて、防衛力を抜本的に強化することとしている。

いかなる時代においても、国民の命と平和な暮らし、そして、我が国の領土・領空・領海を守り抜き、次の世代に受け渡していくことが政府の責務。安全保障に長年携わってきた経験も踏まえ、新たな戦略文書にもとづく我が国の防衛政策などについて、時事問題を扱いつつわかりやすく解説したい。

**我が国通商政策の現状と課題について**

経済産業省 通商政策局長

**松尾 剛彦** [ Matsuo Takehiko ]

ロシアのウクライナ侵略と西側諸国を中心とした対露経済制裁、米中対立の激化など、これまでになく主要国による地政学的な対立が激化する一方、WTO(国際貿易機関)の紛争解決機能が機能不全に陥る等、戦後構築されてきたルール・ベースの貿易システムは、大きな試練に直面している。この事態にどのように対処し、我が国、ひいては世界経済の発展を確保すべきか議論する。

**第5回** **12/2** (土) 13:30-16:30

**パネルディスカッション**

**我が国が直面する構造改革と社会資本整備**

**パネリスト** 国土交通省 不動産・建設経済局長 **長橋 和久** [ Nagahashi Kazuhisa ]

**パネリスト** (一社)日本プロジェクト産業協議会(JAPIC) 常務理事 **林田 康洋** [ Hayashida Yasuhiro ]

**パネリスト** (株)みずほ銀行 執行理事 産業調査部長 **定岡 祐二** [ Sadaoka Yuji ]

**コーディネーター** 筑波大学教員 システム情報系教授 教学デザイン室長 **坪内 孝司** [ Tsubouchi Takashi ]

**期末試験** **12/16** (土) 13:30-16:10 (オンライン予定)